

法人の名称 特定非営利活動法人
ワーカーズ・コレクティブ
ケアびーくる

1 事業の成果

1) 単独では移動が困難な市民が生活の質を高められるよう、市民が持つリソースを発揮して「新しい公共」の一翼を担いました。

参加型福祉の実現と地域に不可欠なサービスの存続を図るため、参加者の拡大に努めました。

今年度も引き続き利用者のニーズにできる限り応え、年末年始も休むことなく介助付き移動サービスの活動を行いました。

- 依頼にはできる限り応え、当日依頼にも可能な限り対応しました。通院・通学・通所はもとより、買物やリフレッシュ、お花見やお墓参りなど、今年も多くの利用に応えることができました。
- 2月に入ると新型コロナウイルスの感染防止の動きが顕著になり、キャンセルも増えました。安心・安全の確保を図るため、会としての対応を検討しました。マスクやアルコール消毒液の不足、感染の不安のなか、どうすれば利用者・ワーカー双方の感染のリスクを避けられるか話し合い、利用者個々の状況に合わせたサービスができないジレンマを感じながらも、院内付添や買物付添いなどは行わず、送迎のみのサービスの選択を検討しました。
- 独居や高齢者のみの世帯など、支援が厚く必要な利用者が増えています。ケアマネジャーや在宅介護支援センターなどとの連絡を密にとり、遠方の家族にも報告をするなど、調整しながらサービスを進めました。
- 3名の新たな会員の参加がありました。内2名の運転会員は法定の「運転者講習会」を受講し、内部研修を経て活動しています。もう1名も、事務作業や階段ヘルプなどで活動に参加しています。
- 家族の介護・子育てや他の仕事などとの掛け持ちのため、常時活動に参加できるメンバーが少ない状況が続いています。また、メンバーの高齢化も進んでいます。運転の担い手不足は引き続き深刻で、ワークの担当決めはぎりぎりのことが多くありました。しかしながら、依頼には極力応えるようシフトを調整するなど努めました。事務局の慢性的な人手不足も相変わらずで、会員の充足は喫緊の課題です。
- 会員は3月末現在47名です。日々の活動の参加者は25名（内、運転会員18名）、セダンの使用車両登録は15台でした。
- 今年度は自損の物損事故がありましたが、人身事故はありませんでした。
- 利用者の新規入会・登録者が近年になく多くありました。市内の介護タクシー

事業者 2 団体の撤退の影響も大きかったのですが、利用拡大に努めるなか、ケアマネジャーほか、在宅支援をサポートする方々に、移動サービスの存在が浸透し、それを必要とする方々が多くおられることの表れでもあると捉えています。限られたメンバーでの対応は運行管理にも負担がかかり、改めてメンバー拡大が求められます。

- 昨年に比べ、利用者実数は+94名、利用者延べ人数は+572人、利用回数は+941回、総時間数は+864.25時間と活動実績は大きく伸びました。
内、利用者延べ人数はケア事業で+520人、福祉車両利用助成事業で+52人の増加でした。

2) 利用しやすい移動サービスを実現するため、大和市・神奈川県・国との協働や他団体・他機関との連携をすすめました。

大和市とは引き続き協働事業を実施し、利用者など市民の方々に貢献しました。

- 協働事業を開始してから 16 年目、6 期目となりました。協働事業協定書にもとづき、大和市からは引き続き、福祉車駐車場（4 台分）およびストレッチャー等の保管場所、負担金の提供を受けました。
- 料金体系の見直しにおいて、大和市の担当部署の協力をいただきました。
市内協働事業者 3 団体と市で情報交換を行い、福祉有償運送の現状と課題を市と共有できたことは成果であり、利用者にもわかりやすい料金体系とすることができました。
- 毎年の「広報やまと」への掲載のほか、「出張！ボランティア総合案内所」などで情報提供をしていただきました。
- 大和市福祉車両利用助成事業に関する受託事業を引き続き行いました。必要に応じ、担当課との調整を行っています。
- 市が設置している「大和市地域公共交通会議」にケアびーくるからメンバーが参加しました。
- 地域福祉の充実に関しては、以下の組織やネットワークに引き続き参加し、連携・交流を深めました。
 - ・コミュニティ・オプティマム福祉地域協議会 大和
 - ・神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会
 - ・NPO 法人かながわ福祉移動サービスネットワーク
 - ・大和市民活動センター

3) ニーズに沿った質の高いサービスが提供できるよう介助研修や共育に努めました。

車両運行における利用会員の「安全と安心」を確保するため、安全運転と適切な運行管理に力を注ぎました。

様々なニーズにきめ細やかに対応できるよう、運行管理者、運転会員で情報共有を図っています。利用者の「安全と安心」の確保に努めました。

- 車を使つての活動はいつも神経を使います。メンバーひとり一人が緊張感を持って、かつ利用者の方々への共感を持って、活動を進めました。
- 適宜、メンバーが講習会や研修に参加し、日頃のワークに生かしました。(安全運転講習会、学習会等)
- 安全運転などの確認のため、メンバー9名の参加のもと、福祉車に乗り合わせての運転研修を行いました。日頃の運転を改めて確認できました。車いすから移乗についても意見交換しながら研修しました。
- N-BOX の操作に関して、随時、研修をしました。今まで福祉車の運転をしなかったメンバーでも運転が可能になっています。
- 新たな2名の運転会員のため、同乗研修をはじめ内部の研修を進めました。必要に応じ、ストレッチャーやフルリクライニング車いすなどの扱い、福祉車両の車いす固定操作の再確認等の研修を個別対応で行いました。
- メンバー3名がそれぞれ70歳の定年の節目で外部の運転技能研修を受講し、定年を延長し活動しています。
- 冬季の安全確保のため、福祉車3台(てのひら号、ハイエース、N-BOX)にスタッドレスタイヤを装着し、雪の日対策を行いました。
- 毎月の定例会で、安全で安心のサービス実現に向けて情報交換を行い、きめ細やかなサービス提供に努めました。受講した安全運転研修の内容やヒヤリハットの共有も図りました。
- インフルエンザやその他の感染症対策として引き続き、各車両にアルコール消毒液を備え、サービス終了時の消毒を行いました。また、2月からはマスク不足、消毒薬不足のなか、情報交換、市の動きなどをとらえ、利用者にマスクの装着・手指の消毒をお願いし、対応を進めていくことができました。
- 運行管理は日ごろから連絡を密にとり、正確かつきめ細やかな対応ができるよう努めました。

4) 今後の会の存続を見据えて活動を進めてきました。

日々の活動に追われながらも、今後の会の存続を見据えて活動を進めてきました。

担い手拡大に向けての取り組み

- 担い手拡大については、メンバーが常時、新しい仲間づくりを心がけました。運転会員の内の1名はボランティアセンターに掲示していただいているポスターを見ての入会となりました。また、市役所掲示板や福祉車に、常時、メンバー募集のポスターを掲示し、問い合わせもありました。

利用拡大に向けての取り組み

- 利用拡大とメンバー募集を視野に、「ケアびーくる通信 No9」を発行しました。大和市、利用者、関係事業者などに広く配布しました。時宜を捉え、リーフレットやチラシを配布しながらケアびーくるの活動をアピールし、利用拡大とメンバーのお誘いに努めました。新たな問い合わせや利用者の加入の多い1年となりました。

料金体系の見直し・検討

- 料金体系の見直しを年度後半で行い、3月に運営協議会の協議が整い、4月から新しい料金体系でスタートすることになりました。メンバーに周知徹底を図るため、少人数の説明会を5回持ちました。リーフレットを改定し、利用者・関係事業者にお知らせを郵送しました。

福祉車両の更新に向けての取り組み

- 福祉車両は、(新)キャラバンが15年目、ハイエースが11年目、てのひら号が5年目、N-BOXが1年目になります。5月に24時間テレビの福祉車寄贈事業に応募しましたが、残念ながら落選しました。
- 年間を通じて経費削減に努めました。

助成金などへの応募

- 県及び市の共同募金配分金に加え、かながわ土地建物保全協会ライフフリー事業助成金、イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンから助成をいただきました。また、個人からの寄付もあり、事業外収入として、収支バランスをとることができました。

中期計画・長期計画の随時見直し

- 中・長期計画は随時見直しました。

5) 理事会と定例会を毎月開催し、参加型で問題解決をはかるとともに、研修と共育に努めます。

毎日の定期メールで情報を共有し、こまめな情報交換と問題解決に努めました。

- 理事会と定例会を毎月開催しました。定例会はメンバー相互の情報交換の場とし、日々の問題点を共有するとともに、解決に向け話し合いました。
- 定例会の議事録をメールで活動会員全員に送信し情報の提供を行い、共有化を図っています。
- 新型コロナウイルス感染防止のため「3密」を避けて、書面・Web会議の開催も試みました。

6) 地域への情報提供をおこないました。

- 「ケアびーくる通信」は1回発行しました。ホームページの充実やブログならびにフェイスブックの更新に努めました。

(ブログ更新：10回)

朝日新聞の桜ヶ丘インフォメーションに広告を掲載して頂きました

(掲載：9回)。

2 事業内容

特定非営利活動に係る事業

① 外出介助等のサービス事業

ア ケア事業

- ・内容 通院入退院、通所通学、買い物等の外出介助および付き添いサービス
- ・日時 通年
- ・場所 大和市および隣接した市区
- ・従事者人員 25人
- ・対象者 移動制約者 302人（のべ利用者3414人）
- ・支出額 11,238,118円

イ 大和市福祉車両利用助成事業に関する受託事業

- ・内容 大和市福祉車両所施事業対象者における外出介助及び付添サービス
- ・日時 通年
- ・場所 大和市および隣接した市区
- ・従事者人員 25人
- ・対象者 移動制約者 76人（のべ利用者642人）
- ・支出額 2,648,024円

② 地域に向けて研修、啓発をはかる事業

- ・内容 ケアびーくる通信の発行（年1回）
ホームページの充実、ブログ更新（年10回）、facebookの更新
新聞折り込みチラシへの広告掲載（年9回）
- ・日時 随時
- ・場所 大和市内
- ・従事者人員 7人
- ・対象者 移動サービスを受けたことのない方および、そのご家族
- ・支出額 52,987円

③ その他、この会の目的を達成するために必要な事業